

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	神崎市立神崎小学校
1 前年度 評価結果の概要	変化の大きい状況の中で、その時々之最善と思われる校務体制・意識を持つことに努め、工夫した校内研修・ミニ研修の設定等で、職員が、共通理解・共通実践に向かう学校体制が築かれてきたことが大きな成果であるとする。この体制の継続を図りながら、教職員個々の指導の差を縮めていくことが重要と考える。教育活動については、教員のビジョンのもと、児童の主体的な活動を活性化させた学校づくりを目指していく。また、「つながる」をキーワードに、保護者とのつながりの強化を目指す。
2 学校教育目標	『体を強く 心賢しく 学び合う せんだんの子』の育成 <健康や安全に気を付けた生活や行動ができる子ども> <生命あるものを大切に、思いやりの心をもつ子ども> <自ら学ぶ意欲をもち、人と関わりながら、学び合っていく子ども>
3 本年度の重点目標	① 落ち着いた学習環境をつくり、学力の確実な定着と学習意欲の向上を図る。 ② 校外外において基本的な生活習慣を身につけさせ、健康で明るい生活態度を養う。 ③ 自己肯定感を高め、「自分を好きに」「人を好きに」「学校が好きに」「ふるさとを好きに」なる児童の育成を図る。 ④ 校務の効率化を図り、教員の質の向上を目指す。

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価			主な担当者		
(1) 共通評価項目				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	最終評価			学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組				実施結果	評価		意見や提言	
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上 ○百マス計算で各学年で設定した目標の達成率80%以上	●教職員間でマイプランを共有し、毎学期、振り返りを行う。 ●週3回、陰山メソッドによるスキルタイムを実施する。								
	○「わかった」「できた」を実感できる授業づくりの推進	○「めあてと運動した振り返り」を書くことができる児童90%以上 ○「授業で学習したことがわかる」と回答した児童80%以上 ○「自分の考えを書くことができる」「考えを伝え合うことができる」と回答した児童80%以上	●「授業づくりのステップ1・2・3」を活用し「めあて」と「振り返り」が有機的に運動した授業づくりを推進し、年間を通して、校内研修等で取組を紹介する。 ●各教科等において、「書く活動」「話し合う活動」の場の設定を行う。								
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や人権に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童85%以上	●ふれあい道徳や人権に関する取り組みについて保護者や地域に情報を発信する。 ●平和集会及び人権集会の実施								
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめや不登校など、子どものサインを見逃さず、子どもの心情に寄り添う指導を行っている」と回答した教職員90%以上	●毎月の「今の気持ちアンケート」の実施 ●月1回の生徒指導協議会の実施 ●年2回(5月期、10月期)の担任教員と児童個々の「お話週間」の設定								
	○規範意識の向上	○「神崎市四力条の誓い」を意識した教育指導をしていると回答する教職員90%以上	●「神崎市四力条の誓い」の学級掲示 ●「あいさつ」「返事」「そろえる」をキーワードとした基本習慣の徹底。								
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	●早寝、早起き、朝ご飯の徹底 ○登校時や給食前後などの石けん手洗いや消毒とマスク着用の徹底 ○習い事がない日は、9時から10時までには寝ると回答する児童90%以上。	●毎日の健康観察での調査声かけの徹底。 ●校内各所に消毒を設置する。手洗いやマスク着用については随時声かけをする。 ●保健便り、学級通信などで規則正しい生活習慣の重要性やゲームの使用時間の管理を啓発する。								
	○安全に関する資質・能力の育成	○運動場で安全に遊ぶことができたと回答する児童90%以上。 ○自転車のヘルメット着用率90%以上	●月に1度ヘルメット着用、防犯ブザー所持の状況を調査し学校便り等で保護者への啓発を図る。 ●遊具での正しい遊び方、教室等での安全な過ごし方の継続指導								
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。 ○全体の時間外勤務平均45時間以下	●パソコンを活用し、職員連絡や事前提案等時間短縮を図る。 ●見通しをもった行事、授業計画案によりタイムマネジメントを図る。 ●毎月の勤務時間状況をフィードバックし業務の見直しを行う。								
	○教職員の自らの働き方の改革と心身の健康の保持への意識の向上	○「働き方の改革を意識し、心身の健康の保持に努めている」と回答した教職員80パーセント以上	●メンタルヘルスに関する情報の提供 ●働き方改革や健康保持に関する研修会の実施								
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組				実施結果	評価	意見や提言		
○教職員の資質向上	○実践の共有、実践力の向上	○教職員の資質能力の向上に資する職員研修を計画的な実施	●外部講師招聘による専門性の向上を図る教職員研修の実施 ●若手教職員を中心としたミニ研修の実施								
○特別支援教育の視点に立つ学級づくり	○個の特性に応じた指導・支援の充実 ○個々が大切にされる学級風土の醸成	○毎月の子ども支援会議の実施 ○保護者アンケートにより「学校は一人一人の児童が大切にされる学級づくりに努めている」との回答90%以上	●子ども支援会議にて配慮を要する児童の状況について共通理解を図り組織対応を充実させる。 ●専門性向上を目指した職員研修の実施 ●学校便り、学級便り等の発行と校内環境整備								
○ICT利活用	○教職員のICT利活用能力の向上 ○情報モラル教育の充実	○「ICT機器を効果的に生かした授業ができる」と回答する教職員95%以上 ○学年に応じた情報モラル教育の実施	●プログラミングに関する研修への参加奨励 ●タブレット活用に関する研修会の実施 ●全学年にて情報教育モラルの授業実践								

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	
----------------	--